
情報機器を活用した生活科学習

榛沢小学校（実践・報告者） 中 村 博 之

1．単元名 あしたへジャンプ～わたしの記録を作ろう～ 第2学年（生活科）

2．単元の目標

誕生から現在までの成長を振り返り、成長を喜ぶとともに、自分の成長を支えてくれた家族や周囲の人々に感謝の気持ちを持ち、「これからもがんばろう」とする意欲を持つことができるようにする。

- 自分の成長に関心を持ち、進んで情報を集めることができるようにする。
- 自分の思いを伝えたり、集めて情報をまとめるために、自分なりの表現方法に気づくことができるようにする。

3．単元の活動計画 18時間扱い

(1)大きくなったわたしをたしかめよう。

時間

自分の成長に関心を持ち、成長の様子を調べることができるようにする。

(2)「自分の記録」を書く準備をしよう。

時間

誕生から現在までの自分の成長のあとを振り返り、自分の成長を記録するために、その材料を集めることができる。

自分の小さかった頃の様子を、取材という目的を持って、1年生の教室を訪問することができるようにする。

(3)「自分の記録」を書こう。

時間

自分の立てた計画に従って、記録を書くことができるようにする。

自分の成長を知って、喜ぶと共に、それを支えてくれた家族や周囲の人々に感謝の気持ちを持つことができるようにする。

感謝の気持ちを相手に伝えることができるようにする。

(4)もうすぐ3年生

時間

3年生の教室を見学して、進級する喜びを持つことができるようにする。

4．情報機器活用の意図

現代の子どもたちは、生活環境において、視聴覚に訴える機器の中に生きているといえる。2年生の児童とはいえ、その機械操作ができる子も多い。子どもたちは、授業の中に視聴覚教材を取り入れることで、非常に興味を示す。また、視覚にうたえることで、その学習効果も高いと考える。

コンピュータを使った授業は、子どもたちが心待ちにしている。お絵かきや作文だけでなく、インターネットやメールにも興味を示し始めている。

発表時には、写真、ペープサート、紙芝居、巻物、すごろく等今まで使っていたメディアだけでなく、デジタルカメラ、VTR、カセットテープレコーダーなど新しい方法を知らせ、触れさせ、児童が表現にしたい機器を可能な限り活用させたい。いろいろな方法にふれ、慣れ、親しむことで、こ

れからの自分なりの表現方法に広がりを感じたい。

教科の特性や単元のねらいをふまえた、学習支援の道具としてのコンピュータの活用可能性と方向性を探る中で、本単元では、生まれてから今までの成長を振り返り、自分の調べたことを自分なりに表現したり、記録をまとめたりする道具としてコンピュータを活用させたい。子どもたちの欲求である「コンピュータをたくさんさわりたい」を取り上げ、「こんな場面で、こんなふうにも使うことができる。」という経験をさせたい。集めてきた資料をコンピュータに保存したり、保存した資料をすぐに取り出し作り直したりして、再び活用できるコンピュータの良さにも気づかせたい。

5. 実践の概要

活動計画(2)「自分の記録」を書く準備をしよう。

小さい頃の思い出の品物、場所等を記録写真として、デジタルカメラに納め、プリントして、「自分の記録」に使用する。または、データを保存しておく。

活動計画(3)「自分の記録」を書こう。

パソコンのワープロソフトを使って、自分の記録のページを打ってみる。

写真のデータがある児童は、自分の文と組み合わせて、ページを作り、プリントする。

自分の記録の発表会をしよう

主な学習活動	教師の支援と評価	資料・準備
1. 学習の準備をする。	○インタビューカードや小さい頃を思い出させるものが並べられるよう助言する。	インタビューカード
2. 本時のめあてを知る。		各自の思い出の品
自分が赤ちゃんのころのことを、しょうかいしあおう		
3. 調べてきた自分の成長 班の友だちと紹介し合う。	○紹介の時に気をつけることを理解できるようにする。 紹介したいという意欲を持っている。また、聞く姿勢ができています。(行動・観察) ○聞きたいことを質問させたり、感想を述べさせたりして、話し手と聞き手が関わり合いながら紹介ができています児童の良さを全体に広げる。 ○うまく表現ができない子には、その班に行き、聞き役になる。	VTR カセット テープ プロジェクタ デジタルカメラ

6. 成果と課題

いろいろな機器を利用することで、学習への意欲が高まった。子どもたちは、機器の操作についても覚えが速く、正しく教えると、とても丁寧に使用してくれた。機器の利用の機会を増やすことで、子どもたちのスキルは確実に高まっていく。しかし、2年生という児童の発達段階においては、基本的に手書きの絵と文で仕上げることも忘れてはならないことであり、そのバランスを考えた上での利用計画が立てられなければならない。

データの保存によって、データの使いやすさ、他の学年での学習の資料として使える可能性も忘れがたいが、それと共に、データの使われ易さ、プライバシーの保護についても、発達段階に応じて認識させていきたい。